

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本人の誇りであるイチロー氏、2019年引退するまで28年間日本プロ野球、メジャーリーグにて数多くの記録を残したのは皆様もご存じだと

思います。「努力の天才」と称された人です。イチロー曰く「壁というのは、できる人にしかやってこない。だから壁がある時はチャンスだと思っている」と。誰しも人生において壁や困難な事が多かれ少なかれやってくるものだと思います。そんな事が現れた時にどう向き合うべきかを教えてくれた言葉だと思います。すがすがしい若葉の季節、大いに英気を養いたいものですね。皆様もお体を大切になさってください。

サンライズの物語

いくつになっても愛する人との別れのつらさは同じ——

前向きに生きる物語



その方は、62歳の時に出会った方でした。関節リウマチに罹患されておりましたが、パートで働きながらリハビリに通っていたのです。

右足を引きずるように歩いていましたが、「リハビリをして、絶対健常者のように歩けるようになるからね」と、自分の疾患に対して前向きで明るく会うたびに元気を貰うような人でした。

最後の電話での話は「今度就活するのよ。電車を通うのもリハビリだよ。自分でできる事を増やしたのよ」といつもと変わらない元気がでる会話でした。

そんな会話から2週間後何度連絡をしてもご本人に繋がらずに緊急連絡先である、ご長男様へ連絡をした時の事でした。

「母は2週間前の朝、息を引き取った」とのこと。突然の訃報に驚きました。長男様にも最後に話した内容を伝えましたが「母はいつも前向きで明るい人でした。残念です」と・・・。

家族との突然の別れ・・・人生において別れは避けられないことだと分かっているにもかかわらず自分の感情のコントロールができなくなります。

以前お釈迦様の「愛別離苦（あいべつりく）」という言葉聞いたことがあります。愛する対象を「大事にしたい・失いたくない」という感情が苦しみとして生まれることらしいです。

ある母親が子供を亡くし、生き返って欲しいとお釈迦様に頼むと「分かりました。その薬に必要な芥子の実（ケシノミ）を貰ってください。ただし、死者をだしたことの無い家で貰ってください」と告げたのです。その母親は来る日も来る日も芥子の実（ケシノミ）を探しに色々な家を訪ねましたが、あるはずもなく「誰も愛する人を亡くしている」と悟り自分だけではないと気がついたとの逸話があります。

いくつになっても愛する人との別れの辛さは同じです。唯々前を向かねばならないと思うばかりです。

サンライズのデイサービス陽光だより



誕生日

誕生日カードを差し上げました。皆さんで誕生日の歌を歌いお祝いしました。



5月カレンダー工作

各自、折り紙で鯉のぼりと兜を作り貼り付けてカレンダー工作をしました。



NEWS 今月のニュース

「認知症マフ」気持ちいい 毛糸の編み物、住民団体が手作り 熊本・益城町の介護事業所に寄付

認知症の人が手にすることで安心感を得られるという筒状の毛糸の編み物「認知症マフ（トゥウイドルマフ）」。熊本県益城町の住民団体「エンジェルはーと」は11日、安永の認知症対応型通所介護事業所「ココカラいっぽ」に手作りのマフ11個を寄付した。

マフは筒の両端から両手がゆったりと入る大きさで、縦20センチ、横30センチほど。表面には動物や桜の木が飾り付けられ、筒の中には手で握ることができる編み物が付いている。

自宅で編み物教室をしている横井美子代表（75）が昨年夏、南阿蘇村の団体の活動を新聞で知り、「編み物が町民の役に立つなら」と制作を企画。生徒の森下春美さん（73）、

福岡裕子さん（60）が賛同し、9月に団体をつかった。

ココカラいっぽへの寄付は2回目。2月に初めて10個ほどを手渡した際、「利用者みなさんがとても喜んでくれた。うれしくて、夜眠れなかった」と横井さん。以降、マフの飾りにできそうなモチーフを探したり、3人で作品のアイデアを出し合ったりして、精力的に制作を続けている。

ココカラいっぽの職員、高崎光一さんは「編み物のぬくもりを感じて落ち着いた利用者さんもある。持ち帰って自宅で使ってもらえるので、ご家族にとっても良い効果がありそう」と期待する。

この日、マフを受け取った事業所の利用者らは「うれしい」「気持ちいい」と笑顔で手を通していった。90歳の女性利用者は「すてきな編み物。寝る時に手を入れて使うといいね」と、ウサギの飾りが付いたマフをう

れしそうに抱きしめた。

団体はマフの認知度向上を目指している。横井さんは「誰でも作れることを知ってほしい。マフの存在が広まれば、認知症の当事者や家族を地域で支えることにつながる」と話している。（枝村美咲）



「エンジェルはーと」が寄付したマフに手を通す「ココカラいっぽ」の利用者＝11日、益城町

<熊本日日新聞

2025/4/16（水）>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>